

# 福島県立医科大学 学術機関リポジトリ



Title	ふくしま看護モデル検討部会令和5年度健康相談の経緯と実施の報告：学内活動
Author(s)	阿久津, 和子; 阿部, 久美; 井上, 水絵; 大内, 美奈; 高橋, 香子
Citation	福島県立医科大学看護学部紀要. 26: 25-26
Issue Date	2024-03
URL	<a href="http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2219">http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/2219</a>
Rights	© 2024 福島県立医科大学看護学部
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-05-07T07:13:16Z

## 学内活動

## ふくしま看護モデル検討部会 令和5年度健康相談の経緯と実施の報告

ふくしま看護モデル検討部会

拠点化推進班：阿久津和子，阿部 久美，井上 水絵，大内 美奈，高橋 香子

平成29年，ふくしま看護モデル検討部会は，ワールドカフェを開催し「福島看護モデル：看護学部のVision」の語り合いが行われ，10年後の看護学部の将来像として，「看護学部は『看護実践・教育・研究の拠点』と話し合われた。

これを受け，令和4年，ワールドカフェにて『看護学部における「研究，教育，実践とは？」～みんなで考え具体化し実現へ～』をテーマに話し合いが行われた。様々な視点から沢山のアイデアや考えが語られ，第一歩として「看護実践において『医大看護学部の活動を知ってもらう』と意見が集約された。

看護実践において，短期間で実現可能な活動について思案を行うなかで，看護学部教員が近隣住民（蓬莱地区）を対象とした健康教育・相談を実施できないかとの意見が出された。そこで，ふくしま看護モデルにおける実践拠点の一事業として，福島市保健推進課と看護学部教員が協働し，地域住民の健康問題，健康上の悩み事に対し，専門的知識に基づき様々な疑問・質問にお答えする「看護相談」を行うこととなった。

令和5年8月6日(日)15～18時に蓬莱夏祭りにおいて，蓬莱ショッピングセンターの空き店舗で，「健康相

談」を実施した。

相談チームの構成は教員8名（拠点化推進班4名+協力教員4名），学生5名だった。健康相談来場者は31名で，年齢層は10～80歳代と幅広く，高齢者，独居の方が多い傾向だった。相談内容は「血圧」「糖尿病」が多く，食生活，運動についての具体的な内容に対する相談が多かった。

健康相談後，住民の方より「病院に受診するほどでもないけど，ちょっと心配なことを相談したかったから助かる」，「対応方法を聞いて安心した」，「今後もぜひ開いてほしい」，「地区サロンで定期的に開催して欲しい」や，「看護の学生さんを初めて見た。頑張ってるね」と意見を頂いた。また，このような相談会があれば利用したいという意見がほとんどだった。

学生からは，「実際に住民の方の生の声を聞き，そしてふれあいができ良かった」「教員の相談対応の様子，コミュニケーションの取り方を間近で見て大変勉強になった」「将来のキャリア形成の参考になった」と意見があった。

今後もこのような活動を継続的に行い，地域住民の皆様の健康増進，疾病予防，健康に対する困りごとに対し一助となれる看護学部であり続けたい。



健康相談コーナーお知らせチラシ



健康相談コーナー入口



住民の健康相談を受ける教員と学生



沢山の住民の方々が来場されました



笑顔と元気と専門知識で対応しました